



ながの たかし
長野 孝俊教授

日本歯周病学会理事、日本
歯周病学会専門医・指導医

2000年日本大学松戸歯学部卒
業、2004年鶴見大学大学院歯
学研究科修了、2024年より現職。

薬物療法

歯周病予防のため、6か月に一度は歯科医院で
クリーニングをしましょう。

歯周病は全身の病気と深い関わりがあるといわれています。日本歯周病学会にご協力をいただき、歯周病についてのお話をうかがいます。
第22回は「薬物療法」です。

はじめに

歯周病の治療における薬物療法とは、抗菌薬や殺菌薬を全身あるいは局所的に応用することをいいます。

歯周病は細菌による感染症であるため薬を効果的に用いることは有効ですが、歯周病を引き起こすプラーク（細菌）はバイオフィルムを形成しているため、薬のみで完全に除去することは困難です（図1）。

薬の使用法

薬の使用法には、歯科医師の判断により経口投与と局所投与の2種類があります。

経口投与では、急性症状（痛みや腫れ）の緩和や拔牙などの外科手術後の感染予防のために抗菌薬を口から服用します。その際に抗炎症薬や鎮痛薬が処方される場合もあります。

これに対して局所投与は、部分的に深い歯周ポケットがあるときにその部位に薬を使用するというものになります。また、うがい薬を用いての洗口という対応も含まれます。

薬物療法に用いる薬

1 経口投与

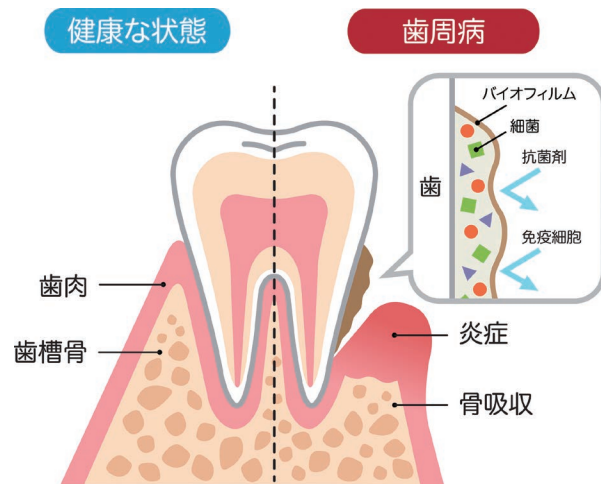
① 抗菌薬

歯周病の原因となる細菌に対して十分な抗菌力があり、血中濃度が維持され、成分が歯肉の周りに高濃度で移行するような薬が望ましいといえます。ペニシリン系、セフェム系、マクロライド系、ニューキノロン系などの抗菌薬が主に使用されています。

② 非ステロイド系抗炎症薬

非ステロイド系抗炎症薬とは、抗炎症作用や鎮痛作用を持つステロイド以外の薬の総称で、抗菌薬と併用されることがあります。

図1 口の中のバイオフィルム



2 局所投与

① 抗菌薬（局所薬物配送システム）

歯肉の腫れや痛みといった歯周病による問題が局所に存在する場合、歯周ポケット内に薬を直接注入する局所薬物配送システムという治療法を行うことがあります（図2）。

少ない投与量で高濃度の薬効成分が作用し、耐性菌の出現や副作用、腸内細菌への影響がきわめて少ないのが特徴で、用いられる抗菌薬で代表的なものはミノサイクリン塩酸塩になります。

② 殺菌薬（洗口液）

洗口液として殺菌薬を継続的に使用することで、プラークの付着や歯肉の炎症を抑制する効果があります。バイオフィルムに付着して殺菌性を示す薬として、グルコン酸クロルヘキシジン、セチルピリジニウム塩化物、ベンゼトニウ

効果的な洗口液の使い方

適切なブラッシングによりプラークを除去した後や、歯科医院でのスケーリング・ルートプレーニングを中心とした歯周治療によりバイオフィルムが破壊された後のタイミングに（第21回「スケーリング・ルートプレーニング（本誌2025年1月号）」を参照）、洗口液を使用する

おわりに

歯周病の治療に際して薬が使用される場合もありますが、軽度の症例や歯周病の治療による反応性が良好であるときにむやみに薬を使用するべきではありません。薬に頼るのではなく、日々のブラッシングの励行やバランスの良い食生活、適度な運動や睡眠などで生活のリズムを整えて、日々ご自身の免疫力を高い状態で維持することがより重要となります。

図2 局所薬物配送システム



図3 洗口液（うがい薬）



ガラガラうがい
のどを清潔にする



ブクブクうがい
口の中を清潔にする